

## 令和4年度 第4回 雄踏中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月13日（月） 14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 雄踏中学校 1階会議室
- 3 出席委員 藤田 源大、山内 勝己、石川 恵一、加茂 聡美、坂下 正泰、藤田 雅光、  
関谷 みゆき、豊田 悦子
- 4 欠席委員 坂田 英夫、江間 祐暁
- 5 学 校 松下 浩隆（校長）、松井 麻紀子（教頭）、山守 達大（教諭）、井口 卓大（教諭）、  
大村 知広（教諭）、藤松 昌一（CSディレクター）
- 6 教育委員会 堀田 洋一（浜松市教育委員会教育総務課）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 協議事項
  - （1）学校関係者評価について
  - （2）学校運営協議会自己評価について
  - （3）令和5年度学校運営の基本方針について
  - （4）いじめ防止等のための基本的な方針について
- 9 会議録作成者 CSディレクター 藤松 昌一
- 10 会議記録

教頭より委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

議長より、別紙資料に基づき、第3回学校運営協議会議事録の内容の確認があった。

### （1）学校関係者評価について

議長の指示により、山守教諭が学校アンケートの結果を報告し、課題や改善策を説明した。

山守教諭：（以下、アンケート結果についての資料をもとに説明）

- ・学校行事については非常に真剣に取り組んでいる。部活動も心身の成長に寄与している。
- ・家庭学習の時間については、十分な時間がとれていない。
- ・SNSの利用については保護者から不安の声が多く上がっている。
- ・学校教育目標が保護者に十分認知されていない。将来について夢や希望を持っている生徒、自分の良いところを認め、自分らしさを大切にしていると答えた生徒が7割である。
- ・クラスが安心できる場所かの問いに、27%の生徒が否定的な回答をしている。クラスによって差はあるが、問題点と捉えている。
- ・学校に相談しづらい保護者が16%いる。コロナ禍で直接会う機会が減少していることが考えられるが、学校側からの情報発信が不足しているとも感じている。問題発生時のみの連絡ではなく、良い表れの時の発信が必要。今後実行していきたい。
- ・教職員の自己評価は、昨年度と比較して改善が見られない、又は、低下している項目がある。平均年齢が若くなったことも要因としてあるが、プロとしての自覚をもって生徒、保護者に対応していく必要がある。これを課題として校内研修の充実を図っていきたい。

- ・ICTの活用も改善が見られない。講習等実施してきたが、来年度さらに活用推進できるよう、先日の職員会議で意識の共有を図った。
- ・学校運営協議会に未参加の教師もいる。まだまだ全体として理解不足である。来年度は全職員が最低1回以上、学校運営協議会に参画できるよう働きかけをしていく。
- ・その他として3年生全国学力調査結果からは、本校生徒の成績は全項目で平均を上回っている。小学校からの学習の積み上げの成果だと思われる。授業への取組は集中しているし、課題の部分も明確化しているので、今後各教科担任が弱点強化を意識した授業を行っていきたい。
- ・生徒への質問調査では、朝食摂取はほぼ100%など、県平均を上回る項目が目立つ。

委員からは以下の発言があった。

豊田委員：学校は安心な場所だと考える生徒が7割超というのは、私としては高い数字だと感じている。ただし、7割を重視するか2割を重視するかにより見方が大きく変わってくる。その子が、学校に来られないほど重症なら対応が必要だが、少し行くのが消極的くらいなら普通と感じる。

藤田委員：私も7割超は高い数字だと思う。20%は授業中ではなく、友人同士の中で感じている感情ではないか。でも20%の放置はだめだと思う。原因の究明と対策は必要。該当生徒との会話の掘り下げが大切。

関谷委員：私は20%は結構な割合だと思う、ケアが必要だと思う。

加茂委員：私も高いと感じている。思春期で心の微妙な揺れはある。深刻な状況でなければ良いがその他のアンケートで先生方の成長度が低いと出ている。先生方に余裕がなく生徒が相談しにくい雰囲気になっているのではないかな。

坂下委員：私はCSの理解度が低いことが課題と思う。活動開始4年目で小学校は浸透が進んでいる。何年かこの状態が続くと活動低下を招く。一方通行だと関心が薄れてしまう。学校目標が理解されていないと同様、発信しても関心を持たれないのは大きな課題だ。先生のみならず保護者にも理解してもらうよう活動を活発化して行く必要がある。

山内委員：自分に置き換えると中学生で将来の夢や希望は持てなかった。現状70%は高い数字だと思う。その他として自宅学習2時間は多くないか。SNS対策は問題が発生し易い課題。やはり対面での会話は重要だと思う。面接の練習で感じたことは、合唱コンクールでの思い出が多かったこと。協力して達成する喜びを感じるのは重要。

関谷委員：生徒のスマホの所有率はどのくらいか。

大村教諭：生徒個人で50%以上、親のスマホを共有する、を含めると90%以上となる。

藤田会長：スマホを使えないと困りますが、使いすぎるのも問題、犯罪被害に会わないようするにはどうすれば良いか、技術的な対応だけでなく、使用者のマナーの問題が重要。学校でもその点を深掘りしてほしい(道徳の時間など工夫して取り上げてもらいたい)。

加茂委員：職員回答でCS活動取組に50%の先生が出来ていないと回答、せっかく時間を調整して活動しているのに残念に思う。今までの委員会提案が学校にどのように活かされていたのか。

藤田会長：自分たちの活動が役に立っていることを先生方に理解してもらうことも必要。

学校からも提案があったように学校運営協議会に1人でも多くの教員が参画できるように、短時間でもいいので対応をお願いしたい。

坂下委員：PTA役員の方々も参加をお願いしたい。会報等での学校運営協議会との関わりの浸透をお願いしたい。

石川委員：家庭の勉強時間問題について先生は気にする必要はないのではないか。あくまでも家庭の保護者の課題ではないか。

## (2) 学校運営協議会自己評価について

委員から以下の発言があった。

加茂委員：学校教育目標は生徒たちにかみ砕いて伝えられたらと思う。

藤田委員：防災啓蒙活動を中心に来年度も活動を続けていきたい。

関谷委員：被服実習補助については、継続していきたい。教室に生徒が訪ねてくれて非常に感動した。ボランティア冥利に尽きる。来年度も是非実習に参加したい。

藤田会長：生徒、ボランティアともに感謝の気持ちをもっていることを職員の皆さんに伝えていただき、活動事例として紹介してほしい。

坂下委員：このような交流・活動がCS活動の本質だと思う。ここから会話が広まればと感じる。

山内委員：できれば日程をもう少し早く提出してもらえればありがたい。

松井教頭：職員アンケートの「CSにより学校と地域が協力して学校運営に取り組むことができたか」という質問では、「学校運営に」という大きな課題に、職員に戸惑いがある。自分たちも伝え方に課題があると認識している。被服実習、防災、体育大会など多くの活動をしていただいた。活動内容は職員も理解しているが、CSと学校運営との結びつきについての説明、理解ともに不足していたと感じる。

藤田会長：一般職員には運営と言う言葉が少し重く受け止められているかもしれない。あまり砕き過ぎると、多くの解釈が生まれる。公的な文章となるとどうしても制約が発生する。自分たち用の説明資料と、公務用の報告書に書く内容とで用語変換が必要になると思う。

関谷委員：防災訓練だがPTAや地域のボランティアの人数が多く、手持ち無沙汰だった。もう少し事前の要望人員の精査が必要だったのではないか。

山内委員：来年度は参加人数について、PTAとの事前の情報共有が必要。

## (3) 令和5年度学校運営の基本方針について

議長の指示により、松下校長から資料に基づき「令和5年度浜松市立雄踏中学校経営方針(案)」について説明があり、委員からは以下の発言があった。

山内委員：キャリア教育に関することで、幼稚園からボランティアの実習要請がある。コロナの影響はあるが幼稚園では期待している。

松下校長：実習可能であれば、こちらからも是非お願いしたい。運動会とか各行事のお手伝いもできればと考えている。授業の中でも出していきたい。

「令和5年度浜松市立雄踏中学校経営方針」について参加委員全員異議なくこれを承認した。

#### (4) いじめ防止等のための基本的な方針について

議長の指示により、大村教諭より「いじめ防止等のための基本的な方針」についての説明があり、委員からは以下の発言があった。

加茂委員：地域として、具体的には何をすればよいか。

大村教諭：お祭りやボランティア活動など、地域での活動を見守っていただく中で、皆さんがいじめ等気付いた段階で注意喚起をお願いしたい。

藤田会長：地域の皆さんの協力で温かく見守ることを推進していきたい。誰でも起こりうる問題なので、温かさをもって問題に対応してもらいたい。

#### その他連絡事項

松井教頭から、本年度の活動報告、夢育やらまいかCS加算分の報告、本年度で退任する委員の紹介とお礼の言葉があった。また、連絡事項として、令和5年度第1回学校運営協議会の日程案について説明があった。